

続・ふるさと

こぼれ話

福田たね・青木繁の「逝く春」

第56回

絵①「逝く春」は、1905(明治38)年に福田たねが第4回太平洋洋画会展に出品した作品である。絵②「逝く春」の画面左上には「S・AWOKI 1906」のサインがある。この絵が府中市美術館の所蔵になった後、本格的な修復作業が行われ、その途中で左上部のサイン「S・AWOKI」の下層に、「ANNE FUKUDA 1906」の文字が認められた。2つの絵に共通する人物膝下の円弧状の傷が、X線写真で同じ場所に確認できることから、二つの絵が同一のものであることが判明した。

これらの甲や指、腰や表情の手の甲や指、腰や表情

などの部分に加筆し、浪漫的な情感が漂う作品に仕上げたということが分かった。絵②は、たねが長い間所有していた遺愛の作品であったが、後に絵の裏面に青木繁「逝く春」 幸彦へ 野尻胤子* とサインをし、息子の幸彦(福田蘭童)に託した。「逝く春」のほかに2人の合作として「菊」本然(詩集「夕潮」)な



▶絵①福田たね「逝く春」第4回太平洋洋画会カタログ図版



▶絵②福田たね・青木繁「逝く春」府中市美術館蔵

※福田たねは後に野尻氏と結婚し、野尻姓となった。

しまたがしの芳賀の自然 08



オナガアゲハ
チョウ目アゲハチョウ科
(写真提供=芳賀町自然に親しむ会)

分布=北海道・本州・四国・九州
生息地=山地から低山地
時期=4月～8月
特徴=クロアゲハに似ているが尾状突起が長い。さなぎで越冬し、春は小型な春型チョウが羽化する。成虫は水辺に集団で集まり、水飲みをする。
食性=コクサギやサンショウ(幼虫)
大きさ=開張(羽を広げた最大値) 85～100mm

編集後記

□地球の温暖化や資源の高騰対策として、従来ゴミとして処分されてきたものが新たな資源やエネルギーとしてリサイクルされてきています。携帯電話などの電化製品から貴重な金属を取り出したり、汚泥からメタンガスやリンを回収する技術も開発されてきています。□リサイクルには、原料購入以上のコストがかかることが多いのですが、「ゴミとして焼却してきたものや埋め立てていたものが、新たな資源になる」というだけで、何かいい気分になります。人間の技術開発能力は素晴らしいですね。



▲上延生の蔓株沙華

■編集 芳賀町広報広聴委員会
☎028(677)6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
■発行 芳賀町企画課
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
■芳賀町ホームページアドレス
http://www.town.haga.tochigi.jp
①芳賀町の携帯サイトはコチラから➡

